

考古学から見た戦いの始まり

人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
総合研究大学院大学

松木 武彦

1. 戦争の考古学的証拠

(1) 佐原真による6つの証拠

- ① 対人用武器（狩猟具とは区別される、「人間」を殺傷するための道具）
- ② 防御施設（攻撃に対する備え）
- ③ 受傷遺体（対人用武器が刺さったり、それで傷をつけられたりした人骨など）
- ④ 武器副葬（武器を供えた墓）
- ⑤ 武器崇拜（武器をあがめ、おがむこと）
- ⑥ 戦争を表した芸術表現（戦いや戦士を立派に美しく表現すること）

(2) 佐原の戦争観

- ◎ 戦争の考古学的証拠は、農耕以降に出現
- ◎ 農耕がもたらす余剰(=富)を争奪することによって戦争が始まる
- ◎ 人間はもともと戦わない(闘争本能はない) : 戦争は後天的に生み出したもの
- ◎ それゆえに、戦争は無くすことができる

2. 戦争発生のプロセスとメカニズム

(1) 農耕が戦争を発生させるプロセス

- ◎ 第Ⅰ段階: 人口の増加
 - i) 離乳食の考案 ⇒ 出産間隔の短縮化 ⇒ 出生数の増加
 - ii) 高カロリーで消化の良い穀物食 ⇒ 平均寿命の伸長
 - iii) 定住生活による移動ストレスの軽減 ⇒ 弱者の生存可能性増大
- ◎ 第Ⅱ段階: 資源と富の不均衡
 - A) 「余剰説」: 生産量が増加し、余剰ができ、「富」が生まれる
⇒それを奪い合って「戦争」が生じる(佐原真説)
 - B) 「欠乏説」: 増えた人口を養うために耕地を拡大するが、やがて限界がくる。
災害がそれに拍車をかける。
⇒収穫・土地・水などを奪い合って「戦争」が生じる(橋口達也説)

(2) 「農耕⇒戦争」論への反証・反論

①〔考古学から〕旧石器時代にも戦いの痕跡がある

例) スーダン、ジェベル・サハバ遺跡(図1)

- ・1万 2000 年以上前にさかのぼる狩猟採集民の墓地
- ・59 体中 23 体以上に、細石器によるヤリや鏃(矢じり)が嵌入
- ・骨の病的増殖の分析から、戦いは一度ではなかった可能性

②〔考古学から〕縄文時代に戦いの痕跡がある

内野那奈 2013「受傷人骨からみた縄文の争い」『立命館文学』633:472-458(表1)

③〔考古学から〕植物管理から農耕への発展は、戦争が起らなかった地域で成功

Keith F. Otterbein 2011 Warfare and Its Relationship to the Origin of Agriculture
Current Anthropology, 52(2):267-268

④〔考古学から〕農耕を始めると、人口は低落する

Stephen Shennan, Sean S.Downey, Adrian Timpson, Kevan Edinborough, Sue Colledge, Tim Kerig, Katie Manning¹ & Mark G. Thomas, Regional population collapse followed initial agriculture booms in mid-Holocene Europe, *Nature Communications*, 01 Jan 2013, 4:2486(図2)

⑤〔霊長類学から〕ヒトともっとも近い生物種のチンパンジーは、縄張りをめぐって、群(オスの血縁グループ)どうして戦う

⑥〔進化生物学・脳科学から〕ヒトの脳には攻撃行動をつかさどる領域がある

リチャード・ランガム(依田卓巳訳)2020『善と悪のパラドックスーヒトの進化とく自己家畜化』の歴史』(NTT 出版)でくわしく紹介されている

(3) あらためて、戦争の考古学的証拠をみる(佐原説の批判的継承)

① 農耕より前の戦いの証拠は、すべて「受傷遺体」

- ・対人用(に専門化した)武器はない

縄文時代の受傷遺体は、狩猟用の石鏃や石斧などによる

- ・防御施設はない

縄文時代に大きな集落はあるが、周囲に濠や土塁をめぐらさない

- ・武器副葬はない

縄文時代には稀に石鏃を副葬した墓はあるが、それらは狩猟用具である

- ・武器崇拜はない

縄文時代には、そもそも対人用武器がない

- ・戦争を表した芸術表現はない

縄文時代の「芸術」は、土偶や動植物形土製品、男女の性器の表現など
「生命」や「生殖」の表現

② 農耕より前の戦いとは？

i) 個人間のケンカや殺人

ii) 集団間の単発的な闘争(縄文時代にはない)

iii) フリーライダー<集団の掟や秩序を乱して私欲を追求する者>への刑罰・誅殺

クリストファー・ボーム(斉藤隆央ほか訳)2014『モラルの起源—道徳、良心、利他行動はどのように進化したのか』(白揚社)に、多くの例示と統計がある

- ③ あらためて、戦争とは何か
 - ◎ 「いま目の前にある脅威」を除くという直接的・個人的動機によらない戦い
 - ◎ 戦いへの参加は、文化(美意識・誇り・帰属意識)と社会(規範・法)によって動機づけられている
 - ◎ 動機づけのためのさまざまな文化要素が発達している
- ④ 戦いへの参加を動機づける文化要素の考古学的証拠＝ 戦争の考古学的証拠
 1. 対人用武器（狩猟具とは区別される「人間」を殺傷するために準備され、愛好される道具）
 2. 防御施設（攻撃に対する備え、共同防衛の演出による集団アイデンティティの表示）
 3. 多量かつ継続的な受傷遺体の出土（戦いの大規模化・組織化・恒常化）
 4. 武器副葬（武器を供えた墓、戦いによって地位を得る人びとの出現）
 5. 武器崇拜（武器をあがめ、おがむこと、戦いの美化）
 6. 戦争を表した芸術表現（戦いや戦士を立派に美しく表現すること）
 - ⇒ これらは、農耕開始以降(日本列島では弥生時代以降)に出現する
(世界的には、集約的農耕、大規模な定住、都市の形成など、都市や国家の出現プロセスと併行する)

3. 弥生時代の戦争と田和山遺跡

(1) 戦争の考古学的証拠と日本列島の先史時代(表2)

- ① 弥生時代中期における対人用武器の発達
 - ◎ 独自の対人用武器様式が発達する北部九州と瀬戸内・近畿・東海
 - ◎ 山陰では、対人用武器は出現するが発達は顕著でなく、独自の地域様式も現れない
- ② 象徴化した非実用武器
 - ◎ 弥生時代中期(とくにその後半)に、山陰で顕著に発達
 - ◎ 田和山遺跡の存続時期とほぼ併行
- ③ 田和山遺跡と、各地の防御的集落
 - ① 田和山遺跡
 - ② 大阪府池上曽根遺跡： 大型建物を核にした居住域を二重の環濠が巡る地域の拠点集落
 - ③ 岡山県貝殻山遺跡 見晴らしのきく山頂で武装した小さな集落、環濠はない
 - ④ 岡山県用木山遺跡 丘の斜面をひな壇状に造成して作られた地域の拠点集落
 - ⑤ 徳島県カネガ谷遺跡 交通路を見下ろす山上を切岸で防御、交易品が出土

(2) 田和山遺跡とは何なのか

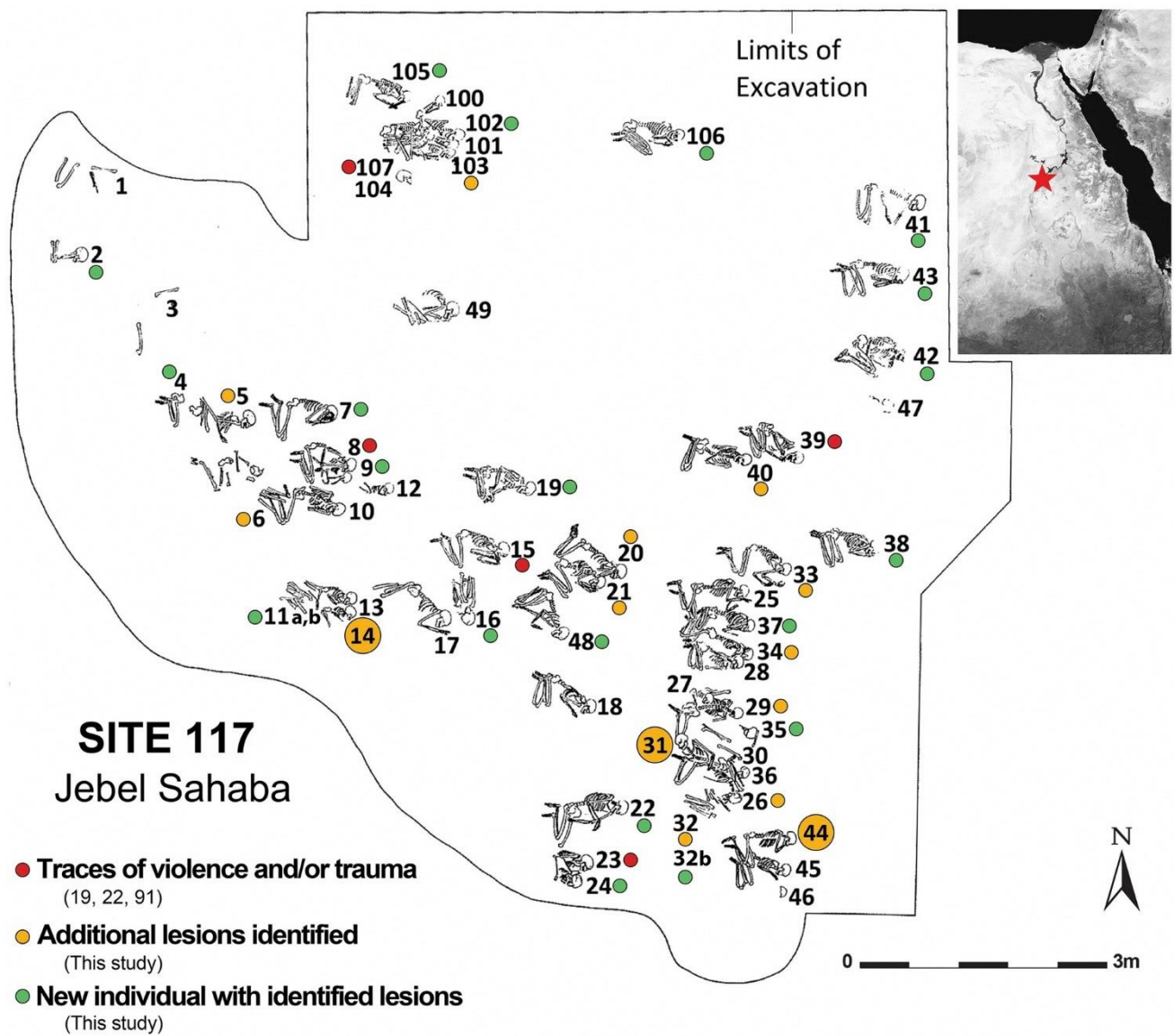


図1 スーダン ジェベル・サハバ遺跡

<https://www.nature.com/articles/s41598-021-89386-y>

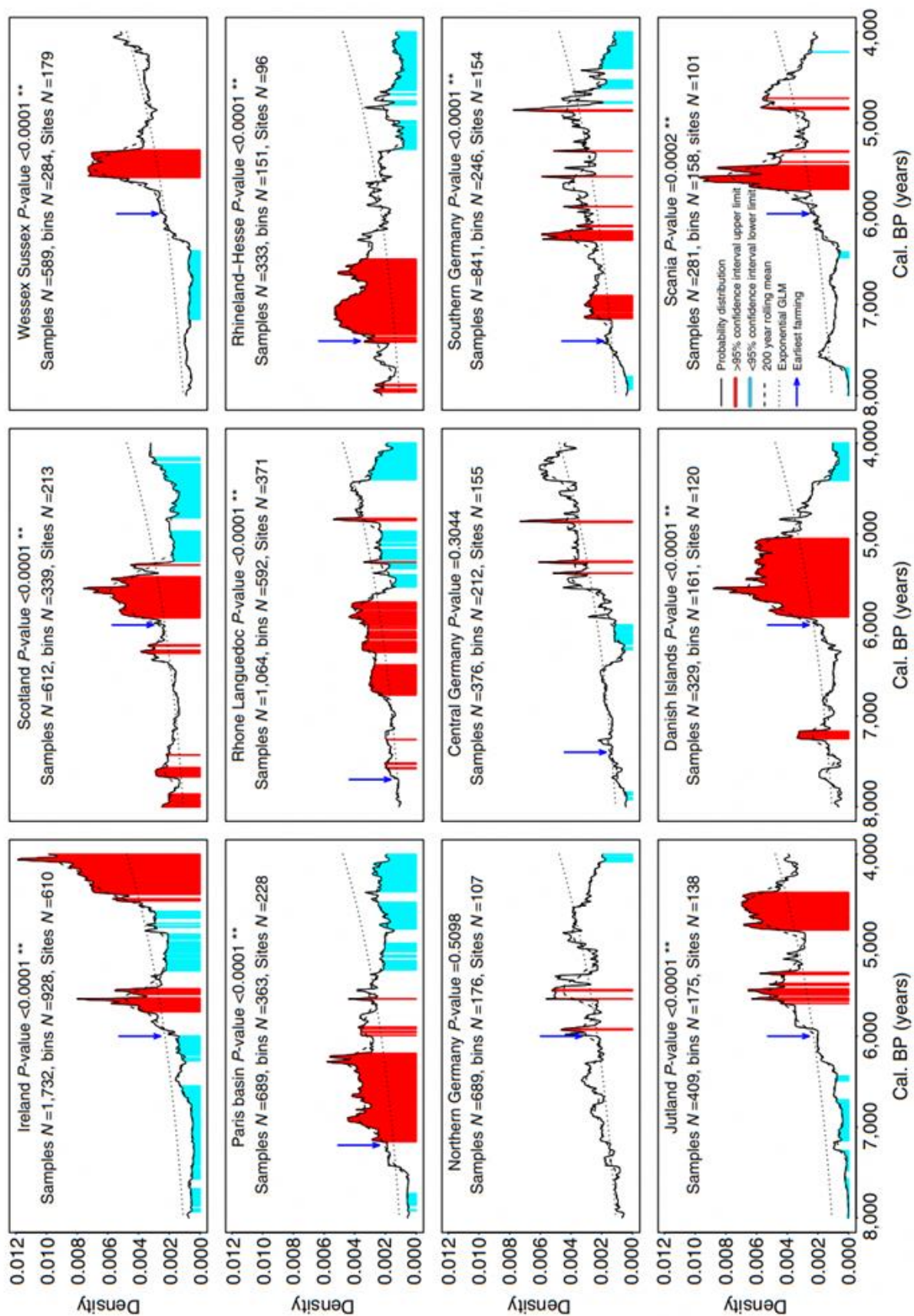


図2 完新世中期(約 8,200-4,200 年前)のヨーロッパ各地における人口の動態 (Shenann 他 2013)
細長い矢印が農耕の開始を表す。

表1 縄文時代の殺傷人骨

No.	所在地	遺跡名	人骨 No.	性別	時期	残存状況	殺傷具	損傷部	殺傷方法 (復元)	治癒反応	タイプ
1	北海道	有珠 10		男性	続縄文		石鎌 (平基)	右大腿骨・後上部	背面右斜め上方、至近距離から	無	Ⅱ x
2		栄磯岩陰		女性			石斧	右頭頂骨 (中央部)			I
3	岩手県	宮野貝塚	BL-2(101号)	男性	中期		石鎌 (凹基)	右腸骨翼後面	後上方やや外側から	有	Ⅱ x
4	福島県	三貫地貝塚	22号	男性	晩期	ほぼ全身	石鎌 (有頸式)	右腸骨前部	後方上から	有	Ⅱ x
5	東京都	下沼部貝塚			後期		鈍器 (棍棒・石斧類)				I ?
6	千葉県	高根木戸	5号	男性	中期	下腿以下なし	石鎌 ?	右上腕骨		有	Ⅱ z
7		加曾利南貝塚	6号	男性	後期	部分的	竹又は木製の槍 ?	右頭頂部	2人による右側(後方)からの殺傷	無	I
8	静岡県	蜷塚貝塚	1号	女性		ほぼ全身	石鎌 ?	左側頭部後端部		無	Ⅱ x
			12号	男性		ほぼ完全	石鎌 ?	右頭頂骨(ラムダ縫合近傍)		無	Ⅱ x
9		伊川津貝塚	16号	女性	晩期	ほぼ完全	石斧	左頭頂部	石斧で2回の加撃	無	I
			20号	男性		ほぼ完全	石鎌	右尺骨後面	背後から	有	Ⅱ z
10	愛知県	保美貝塚	7号	男性	晩期		石斧・石鎌 ?	頭蓋骨	後方から複数加撃	無	Ⅲ
			20号	男性		不完全	鈍器・利器	後頭部・頭頂部	2人からの同時攻撃	無	I
11	高知県	居徳			晩期 ?		骨鎌・金属器 ?	大腿骨			不明
12	愛媛県	上黒岩岩陰	6902号	女性	早期	ほぼ全身	ヘラ状骨器 (槍)	右腸骨翼	右後方、やや上方からの投槍	無	Ⅱ y
13	岡山県	粒江貝塚	103号	男性	中期		石鎌	第三胸椎	正面、至近距離から	無	Ⅱ y
14	広島県	太田貝塚		男性			石斧	左頭頂骨		無	I
15	大分県	枋洞窟		男性							Ⅱ y
				男性	後期		石鎌	胸腔・腹腔 ? 身体の中心部	弓矢(先端が欠損した石鎌も多数出土)		Ⅱ y
16	長崎県	深堀		男性	晩期		石鎌 ?	前頭骨 (ブレグマ近傍)		無	Ⅱ x ?
17		宮下貝塚					石槍 ?	右脛骨遠位端	後方からの投槍	有	Ⅱ y

(内野 2011)

表2 戦争の考古学的証拠と日本列島の先史時代(松木 2021, 一部改変)

時代・期		縄文時代	弥生時代				古墳時代			飛鳥時代
			早期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	
実年代		~BC925	BC925-800	BC800-BC400	BC400-AD25	AD25-250	250-375	375-500	500-600	600-700
戦いの行為が 実際に行われ たことの証拠	1. 受傷遺体	①埋葬された受傷遺体	+	○	○	○	-	+	+	-
		②遺棄された受傷遺体	-	-	-	-	-	-	-	-
		③遺棄された多量の受傷遺体	-	-	-	+	-	-	-	-
		④戦争奴隷の埋葬	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 武器の使用	①遺骸および防衛具や防衛施設への侵入	①遺骸および防衛具や防衛施設への侵入	-	+	○	+	-	-	+	-
		②武器の折損・再生痕	-	+	○	+	+	+	+	-
		③武器の散乱	-	-	+	-	-	-	-	-
		①村落の囲郭	-	○	◎	◎	-	-	-	-
1. 「敵/味方」の 認識と防衛意識	②邸宅の囲郭	②邸宅の囲郭	-	-	-	+	○	○	○	+
		③城市	-	-	-	-	-	-	-	-
		④砦・監視施設	-	-	+	+	-	-	-	○
		⑤防衛線	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 戦いを通じての 自己表現	①特定の武器セット	①特定の武器セット	-	○	○	○	◎	◎	◎	+
		②象徴化された非実用的武器	-	+	◎	◎	○	○	○	-
		③戦いの描写	-	-	-	+	+	-	-	-
		①武器副葬	-	○	○	○	◎	◎	◎	+
3. 「戦う人」と その称揚	②戦士の造形	②戦士の造形	-	-	-	-	-	○	○	-
		③戦いにかかわる動物のイメージ	-	-	-	-	-	-	-	-
		①武器の広域流通	-	-	-	+	◎	◎	○	+
		②武器庫	-	-	-	-	-	-	-	-
戦いを行うた めの組織や技 術が整備され ていたことの 証拠	1. 組織的武装	③武器工房	-	-	-	-	-	-	-	-
		①兵営・駐屯地	-	-	-	-	-	-	-	-
		②標章	-	-	-	-	-	-	-	-
		2. 戦団	-	-	-	-	-	-	-	-